

シリーズ・江戸アラカルト

平成 22 年 10 月 2 日投稿

会員投稿：木村 勝紀

第 1 回：シリーズ開始に当って

神奈川県同窓会のホームページを魅力あるものにするために、微力ながらも寄与したい。これが執筆の動機です。放送大学大学院で江戸に関する研究を続ける者として、恥ずかしながらの蘊蓄をみなさまと共に共有したいと思います。

このシリーズの連載が、ホームページの活性化に多少なりとも寄与できるなら、望外の喜びであります。

江戸時代の最大の特徴は、幕府開闢以来 265 年にわたって泰平の世が続いたことでしょう。これほどの長期間にわたって、ひとつの政権が平和裏に実効支配した例は、世界史的にも稀なことです。このように長い期間、平和だったからこそ経済は発展し、文化は成熟しました。武家と庶民との交流による伝統文化が開花したのは江戸時代です。

江戸時代は、人々が「やさしさ」や「おたがいさま」といった心根を持ち、物を大切にする「エコロジー社会」でした。江戸の社会や経済・文化を具体的に学ぶことで、殺伐とした現代社会を見直す機会としていただければ嬉しく思います。

江戸時代には、今日に活かすべき知恵と工夫がたくさんありました。江戸時代の伝統から、明日への活力を学び取る機会にいただければ、このシリーズの意義が見いだされることでしょう。

【川柳】 置く霜の白きは見せぬ日本橋

むかしから繁華だった日本橋は、現中央区室町一丁目と中央区日本橋一丁目を結ぶ橋で、慶長八年（1603）創架以来、改架は約 20 回に及びます。現在の橋は、明治 44 年（1911）に竣工しました。橋の名前を標す日本橋の文字は、15 代将軍徳川慶喜侯が書いたといわれます。川柳の意味は、霜が降っても人通りの多い日本橋では白いものを見ることはない、と江戸日本橋の賑やかさを詠んだものでしょう。

【写真】

江戸八景 日本橋の晴嵐 溪斎英泉
財団法人 三井文庫 三井記念美術館蔵
日本橋絵巻より

以上 文責：木村勝紀



46 江戸八景 日本橋の晴嵐 溪斎英泉